

中小企業景況調査報告書

(第123回)

平成23年7～9月期 実績
平成23年10～12月期 見通し

平成23年10月

北海道商工会議所連合会

目 次

． 調 査 要 領	
1． 調査時点及び調査対象期間	1
2． 調査対象	1
3． 調査地域及び調査方法	1
4． 業種別・規模別回答状況	1
． 概 況	2
1． 今期の業況	
(1) 今期の業況	5
(2) 今期の売上高	7
(3) 今期の採算（経常利益）	8
(4) 今期の資金繰り	10
(5) 今期の経営上の問題点	11
(6) 今期の従業員の動向	11
(7) 今期の新規設備投資	12
2． 来期の見通し	
(1) 来期の業況	13
(2) 来期の売上高	14
(3) 来期の採算（経常利益）	14
(4) 来期の新規設備投資	15
． 業 種 別 の 動 向	
1． 製 造 業	15
2． 建 設 業	17
3． 卸 売 業	19
4． 小 売 業	20
5． サービス業	22
． 業 種 別 調 査 資 料	24

調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 平成23年9月
- (2) 調査対象期間 平成23年7～9月期実績及び平成23年10～12月期の見通し

2. 調査対象

(1) 中小企業景況調査

「製造業・建設業」については、資本金3億円以下、又は従業員300人以下の企業、「卸売業」については、資本金1億円以下、又は従業員100人以下の企業、「小売業」については、資本金5千万円以下、又は従業員50人以下の企業、「サービス業」については、資本金5千万円以下、又は従業員100人以下の企業を対象とした。

(2) 業界動向調査

道内各地商工会議所が地域の中小企業者との相談等により情報収集した特徴的事例。また各業界組合・企業に対し独自に聞き取り調査を実施し、生の声を収集した。

3. 調査地域及び調査方法

全道商工会議所地域の中小企業に対しアンケート調査を実施（中小企業景況調査）
全道商工会議所を通じて地域の業界組合等へヒアリング調査を実施（業界動向調査）

4. 業種別・規模別回答状況（社数）

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小規模	43	62	43	65	70	283
中規模	16	13	19	14	31	93
合計	59	75	62	79	101	376
構成比(%)	15.7	19.9	16.5	21.0	26.9	100.0

(2) 業界動向調査

・業界動向ヒアリング先 製造業 25社、建設業 16社、卸売業 13社、
小売業 19社、サービス業 43社、合計 116社

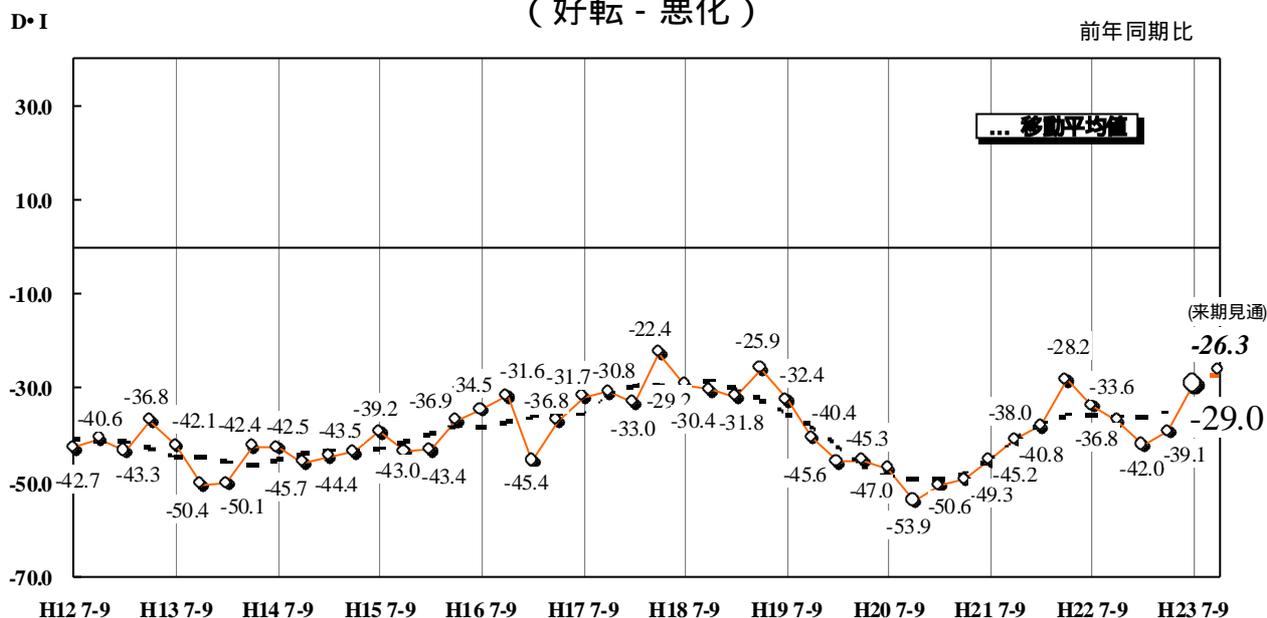
本調査結果中の「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差引いた値（景気動向指数）を示す。

ホームページ：URL <http://www.hokkaido.cci.or.jp/keiki/>

概況

- 業況D・Iは低調ながら持ち直しの動き -

業況推移(全業種平均D・I)
(好転 - 悪化)



今期の業況

今期(7月~9月期)の中小企業景況調査における全業種平均D・I値(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、前年同期比(平成22年7月~9月期の水準と比較した今期の業況)では -29.0と前回調査より、10.1ポイントマイナス幅を縮小した。

来期の業況見通しは、-26.3とマイナス幅をさらに縮小する見通しとなっている。

業種別では、前年同期比では、製造(前回 41.4 今回 22.0)、建設(前回 42.0 今回 21.3)、卸売(前回 35.1 今回 39.3)、小売(前回 44.5 今回 34.2)、サービス(前回 32.9 今回 28.6)と、卸売業を除く4業種でマイナス幅は縮小した。

今期の経営上の問題点として上位に挙げられているものは、依然として全業種で「需要の停滞」(製造業34.6%、建設業53.6%、卸売業68.2%、小売業40.2%、サービス業42.4%)が依然として大きな要因となっている他、製造業では「原材料価格の上昇」(16.4%)、建設業では「請負単価の低下・上昇難」(20.9%)、卸売業では「仕入単価の上昇」(5.3%)、小売業では「大型店・中型店進出競争の激化」(18.9%)、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」(12.22%)などの問題点が浮上している。

一方、設備投資の状況については、今期、新たに設備投資を行った企業は全業種平均で9.5%と、前回調査時（11.9%）より2.4%下降。また来期の設備投資予定については9.1%と、今期より設備投資を控える動きとなっている。

産業別の動向

【製造業】 [業況D・I値（前年同期比） 22.0（来期見通し 16.0）]

業況D・I値（前年同期比）の前の調査（平成23年4月～6月期）時点からの推移では、前回 41.4 今回 22.0と19.4ポイントマイナス幅が縮小した。来期は 16.0とさらにマイナス幅を縮小する見通し。

業界組合・企業よりのコメントでは、依然として原材料価格の上昇により採算の悪化を訴える声が目立つ。

〔主なコメント〕

- ・原料の仕入れ価格上昇・高止まりしており、円高メリットを実感することはない。（菓子製造）
- ・震災の影響で、各メーカーによる資材の値上げが行われ、経営を圧迫している。（印刷業）
- ・原材料費の価格上昇により経営状況は悪くなる一方で、個々の企業努力では解決できない問題まできている。（飲料製造）
- ・世界的な穀物需給の逼迫により原材料価格は上昇傾向にあり、採算が悪化した（食料品製造）
- ・原発による海洋汚染、風評被害が心配される。（水産加工業）

【建設業】 [業況D・I値（前年同期比） 21.3（来期見通し 25.7）]

業況D・I値（前年同期比）の前の調査（平成23年4月～6月期）時点からの推移では、前回 42.0 今回 21.3と20.7ポイントマイナス幅が縮小した。来期は 25.7と今回よりマイナス幅は拡大する見通し。

業界組合・企業よりのコメントでは、官公需要の停滞による受注の減少の他、材料単価の上昇や競争激化による請負単価の低下・上昇難による採算悪化の声が多い。

〔主なコメント〕

- ・震災の影響で資材が高騰し、これに受注金額が対応しないため人件費を圧迫し、職人が賃金の高い本州に流出して不足しており、工期への影響が懸念されている。（型枠工事業）
- ・公共工事について、件数・金額ともに前年度比減となっており、競争の激化にも含め非常に苦しい状況。（建設業）
- ・多少売上の伸びたが、単価の低下や仕入材料値上げ等、好転する材料がない。（建設業）
- ・被災地での需要増により、一部部品が未だに不足がちであること、また原油価格の高止まりの影響で、仕入価格が高騰している。（内装工事業）

【卸売業】 [業況D・I値（前年同期比） 39.3（来期見通し 26.2）]

業況D・I値（前年同期比）の前の調査（平成23年4月～6月期）時点からの推移では、前回 35.1 今回 39.3と4.2ポイントマイナス幅が拡大した。

来期は 26.2とマイナス幅は縮小する見通し。

業界組合・企業よりのコメントでは、他業種に比べ需要の停滞による業況の悪化を訴える声が多く寄せられた。

〔主なコメント〕

- ・ようやく売上減少に歯止めがかかってきたが、収益面での厳しさは残る。年末商戦に期待したい。(食料品卸)
- ・仕入れ原価が上昇したのに対し販売量は減少傾向で非常に苦しい状況。(食料品卸)
- ・特段大きな動きはなく、需要の停滞により年々低調に推移している。(生鮮卸)
- ・得意先、取引先の廃業や高額品の買い控えにより売上は減少傾向で先が見えない状況。

(衣服・身の回り品卸)

【小売業】 [業況D・I値(前年同期比) 34.2(来期見通 34.6)]

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(平成23年4月～6月期)時点からの推移では、前回 44.5 今回 34.2と10.3ポイントマイナス幅が縮小した。

来期は 34.6とほぼ横ばいで推移する見通し。

業界組合・企業よりのコメントでは、買い控えや客単価の減少といった、個人消費の低迷などによる売上の減少を訴える声が目立つ。

〔主なコメント〕

- ・商店街を歩く客足も少なく、景気の回復も直には感じられない。イベントを開催しても出だしのみで、なかなか継続的な効果は見込めない。(商店街)
- ・震災の影響により在庫が少なく仕入価格が高騰している。当地での需要は少ないが、価格に転嫁できず利益が減少している。(中古車販売)
- ・気温が高く残暑が続くため、新商品は入荷してきているが秋物商品への買い控えが目立ち、前年よりも売上が落ち込んでいる。(衣料品販売)
- ・客単価は減少している。あきらかに衝動買いは少なくなっている。(土産物販売)
- ・地デジ関連商品の駆け込み需要が有り、売上増加の要因となった。(家電販売)

【サービス業】 [業況D・I値(前年同期比) 28.6(来期見通 29.0)]

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(平成23年1月～3月期)時点からの推移では、前回 32.4 今回 28.6と3.8ポイントマイナス幅が縮小した。

来期は 29.0とほぼ横ばいで推移する見通し。

業界組合・企業よりのコメントでは、需要の停滞、消費者ニーズの多様化、客単価の低下による売上の低下、採算・業況悪化の声がみられた。

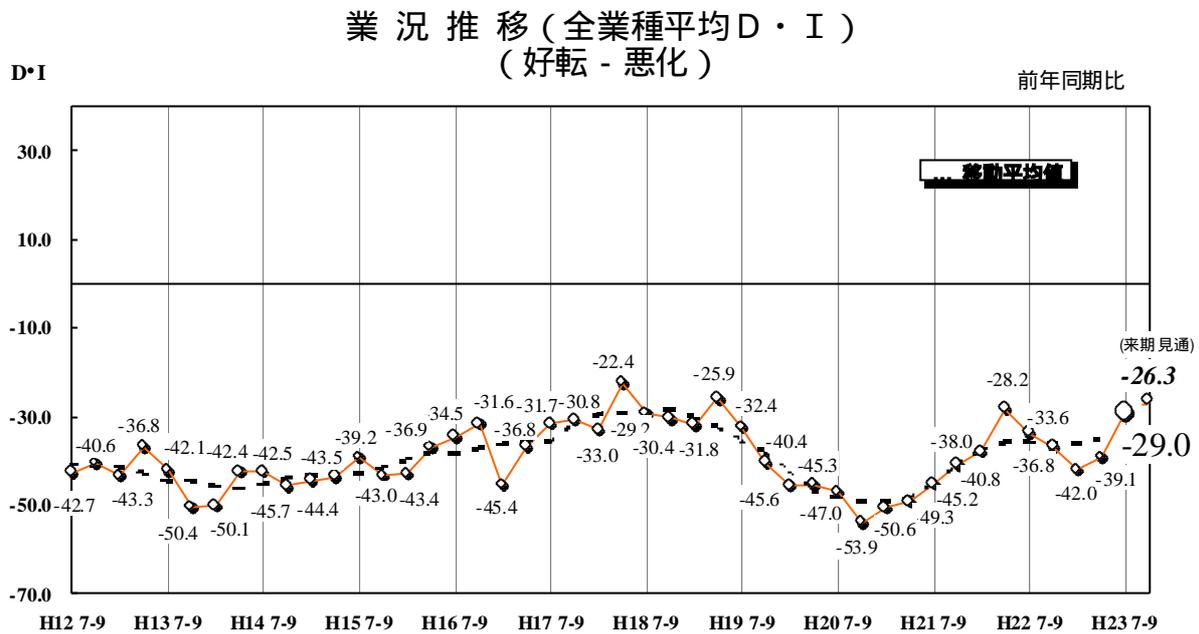
〔主なコメント〕

- ・道内容は回復傾向にあるが、インパウンドは前年同期比50%で客単価も下降の一路を辿っている。海外客主体の企業においては、厳しい経営が続いているのでは。(ホテル)
- ・震災の影響で海外からの来客数の減少や、航空便の縮小化等により来客数の影響を受けている。今後修学旅行の受入や合宿ビジネス等国内の需要喚起に期待が集まる。(旅行代理店)
- ・高速道路の有料化で客足が遠のく。地元客をどの様にしてきていただくかが大きな課題である。(飲食店)
- ・人口減少の影響が大きく、売上は良くならない。今の顧客は金額を重視する傾向にあり、昔のような人のつながりが少なくなっている。(美容組合)

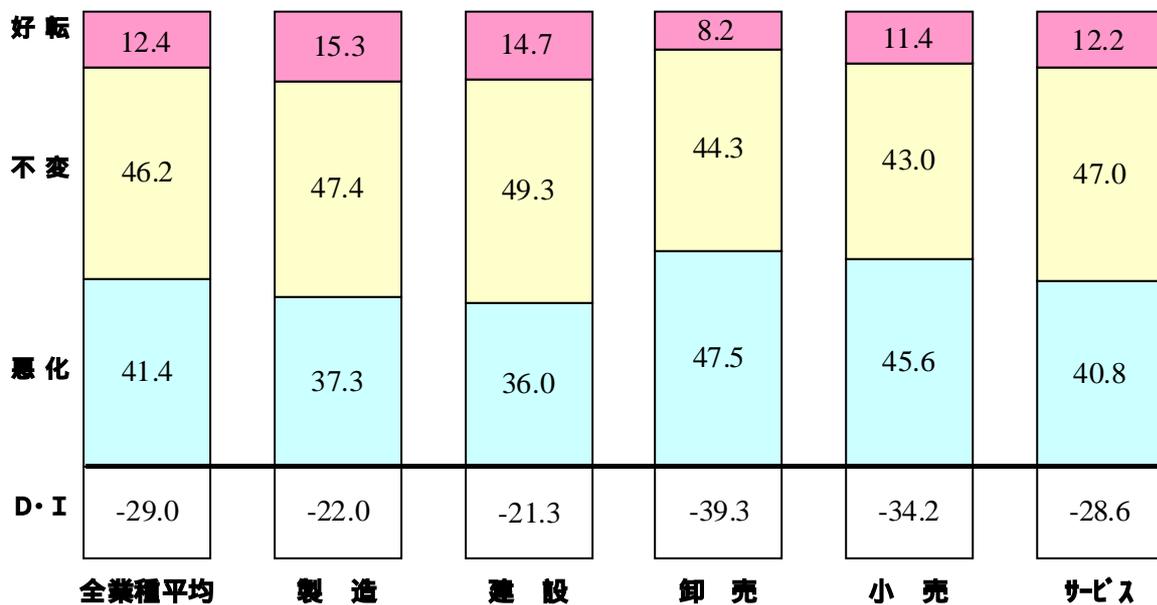
1. 今期の業況

(1) 今期の業況

【前年同期比】（平成22年 7～9月期の水準と比較した今期の業況）



今期の業況（前年同期比）

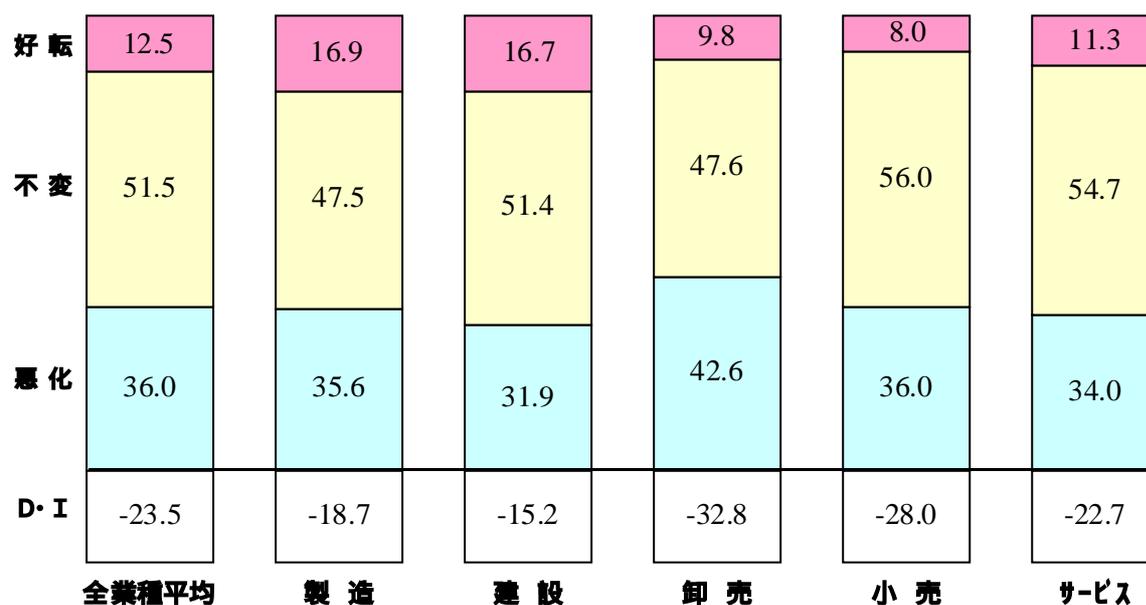


全業種平均でD・I値 **29.0**〔前回調査時（平成23年4～6月期 39.1）より10.1ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 41.4 22.0〕、建設〔前回 42.0 21.3〕
卸売〔前回 35.1 39.3〕、小売〔前回 44.5 34.2〕
サービス〔前回 32.4 28.6〕

【前期比】（平成23年 4 ～ 6 月期の水準と比較した今期の業況）

今期の業況（前期比）

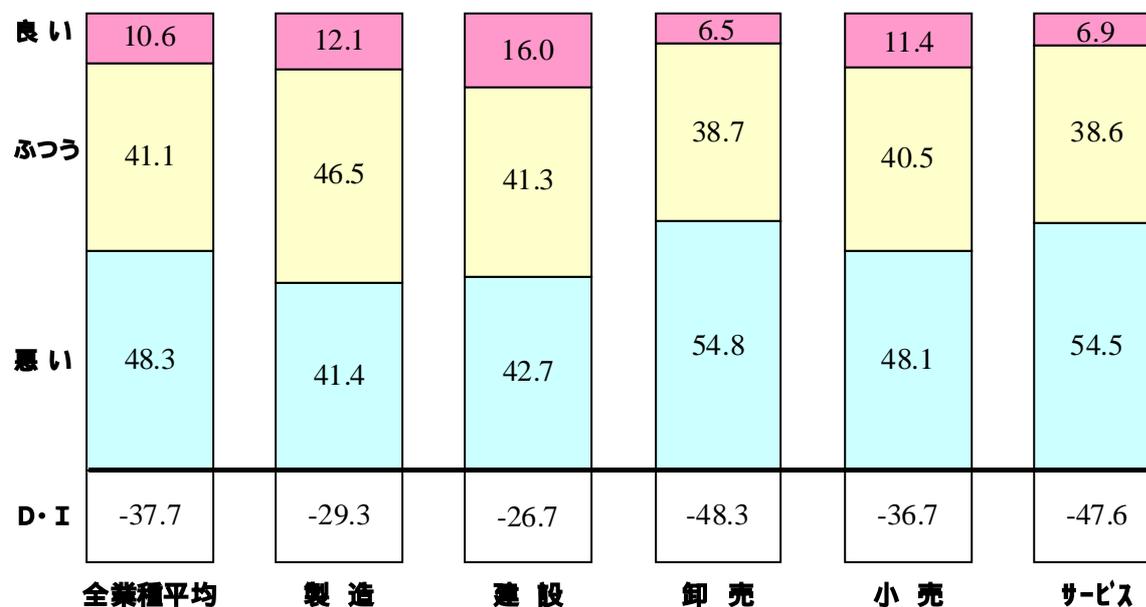


全業種平均でD・I値 **23.5**〔前回調査時（平成23年4～6月期 24.3）より0.8ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 27.3 18.7〕、建設〔前回 25.0 15.2〕
 卸売〔前回 20.0 32.8〕、小売〔前回 25.0 28.0〕
 サービス〔前回 23.9 22.7〕

【今期の水準】

今期の業況（今期の水準）



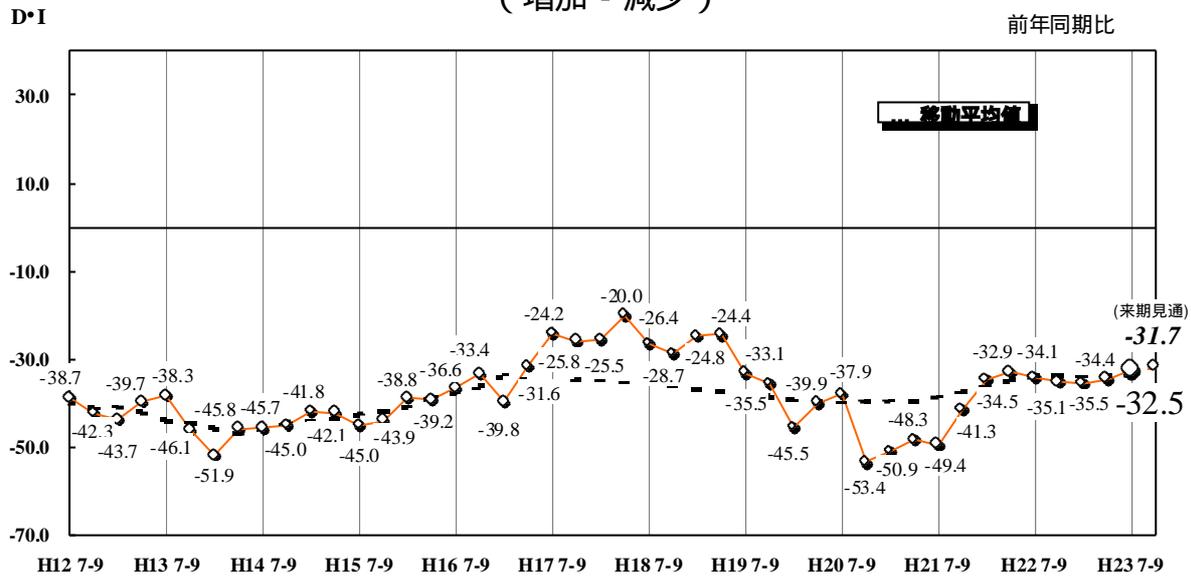
全業種平均でD・I値 **37.7**〔前回調査時（平成23年4～6月期 45.7）より8.0ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 43.1 29.3〕、建設〔前回 43.6 26.7〕
 卸売〔前回 37.9 48.3〕、小売〔前回 61.0 36.7〕
 サービス〔前回 42.8 47.6〕

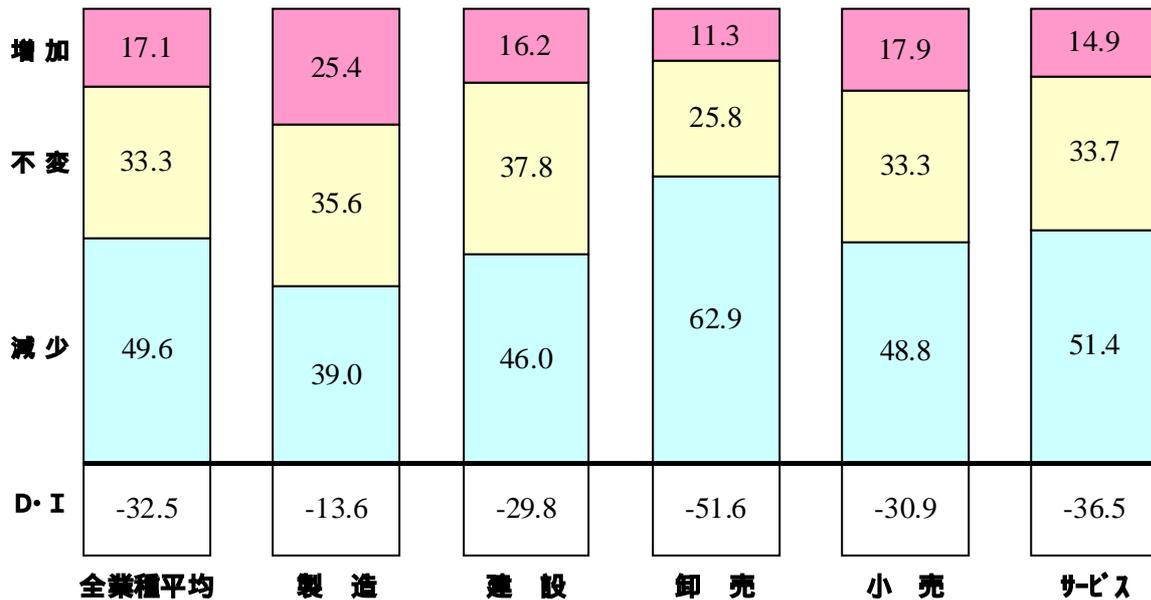
(2) 今期の売上高

【前年同期比】（平成22年7～9月期の水準と比較した今期の業況）

売上高推移（全業種平均D・I）
（増加 - 減少）



今期の売上高（前年同期比）

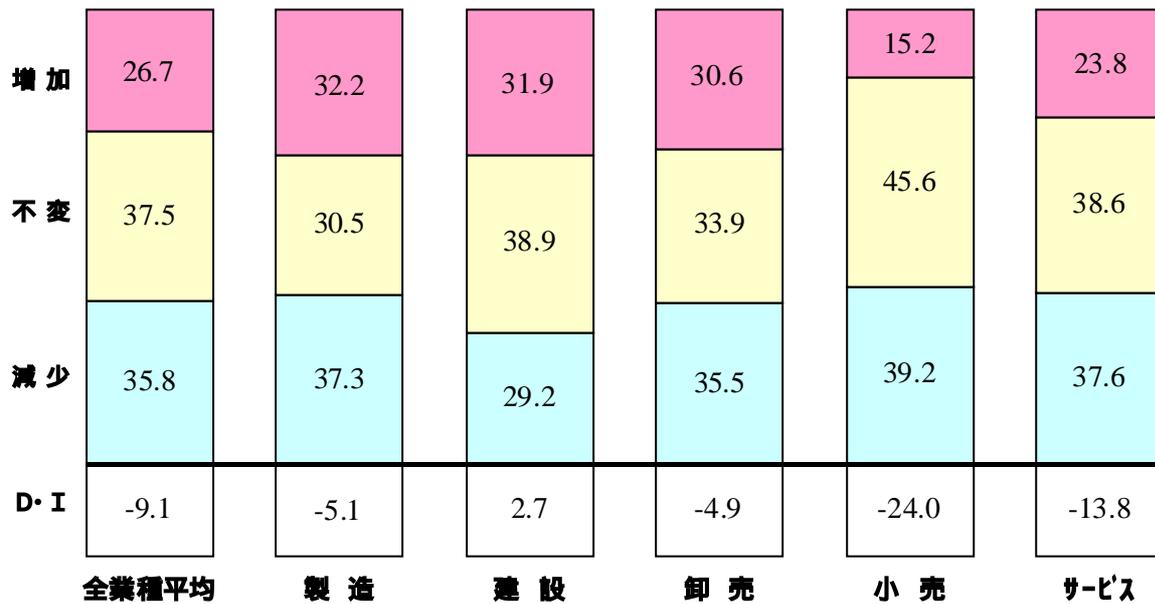


全業種平均でD・I値 **32.5**〔前回調査時（平成23年4～6月期 34.4）より1.9ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 34.4 13.6〕、建設〔前回 27.5 29.8〕
卸売〔前回 32.8 51.6〕、小売〔前回 40.2 30.9〕
サービス〔前回 37.0 36.5〕

【前期比】（平成23年 4～6月期の水準と比較した今期の業況）

今期の売上高（前期比）



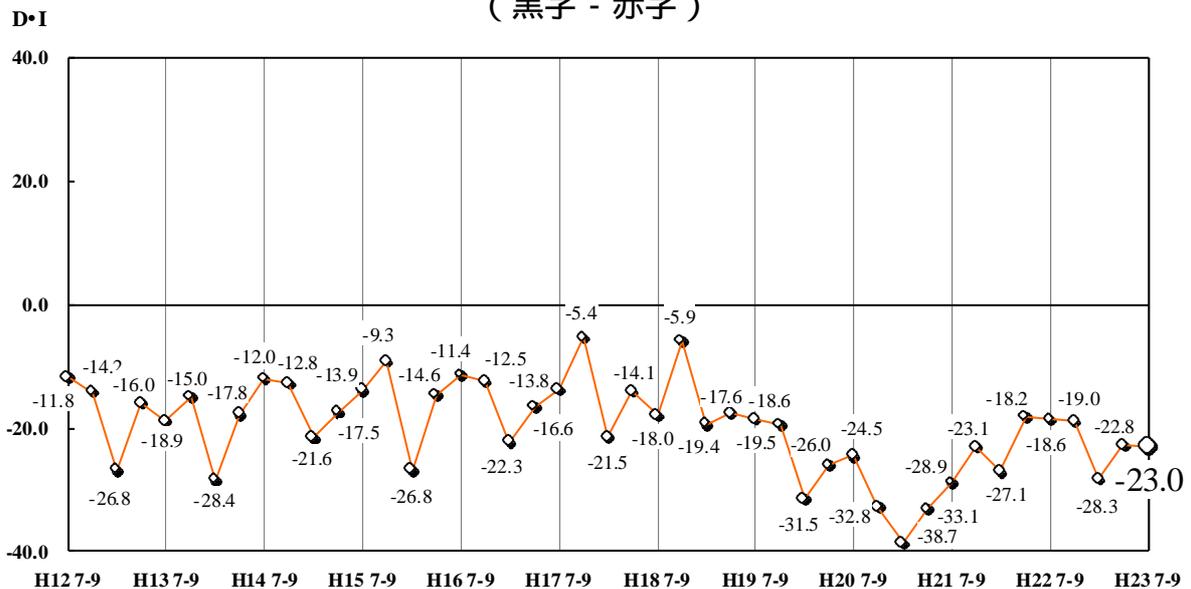
全業種平均でD・I値 9.1〔前回調査時（平成23年4～6月期 11.6）より2.5ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 8.6 5.1〕、建設〔前回 18.9 2.7〕
 卸売〔前回19.3 4.9〕、小売〔前回 29.0 24.0〕
 サービス〔前回 20.8 13.8〕

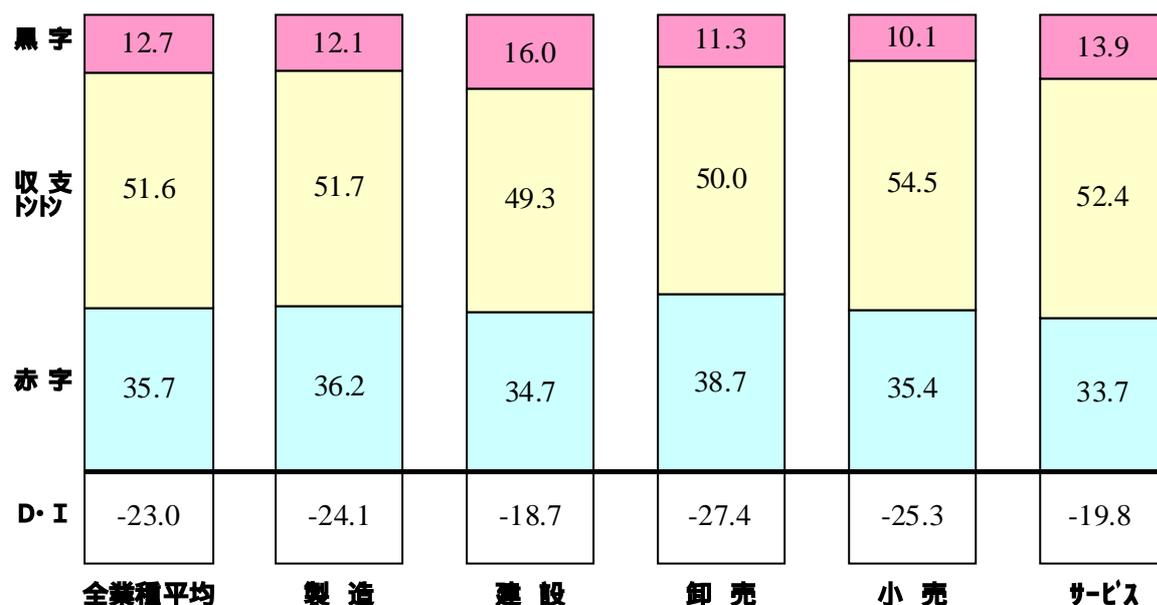
(3) 今期の採算（経常利益）

【今期の水準】

採算推移（全業種平均D・I）
（黒字 - 赤字）



今期の採算（今期の水準）

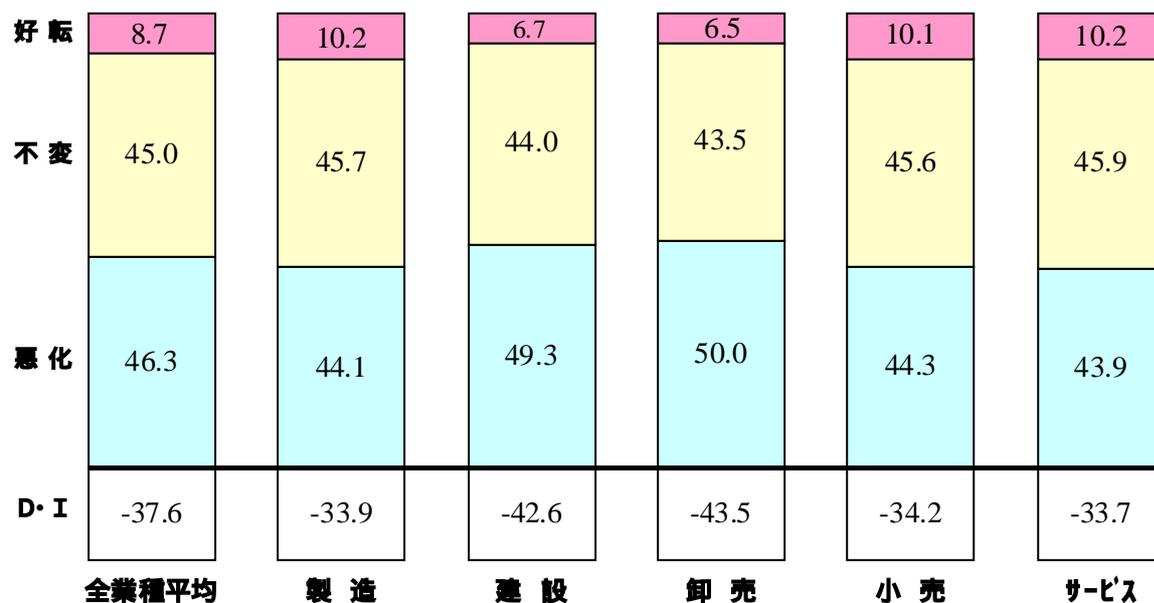


全業種平均でD・I値 **23.0**〔前回調査時（平成23年4～6月期 22.8）より0.2ポイントマイナス幅が拡大〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 27.6 24.1〕、建設〔前回 23.2 18.7〕
卸売〔前回 17.3 27.4〕、小売〔前回 26.0 25.3〕
サービス〔前回 19.8 19.8〕

【前年同期比】（平成22年7～9月期の水準と比較した今期の採算）

今期の採算（前年同期比）

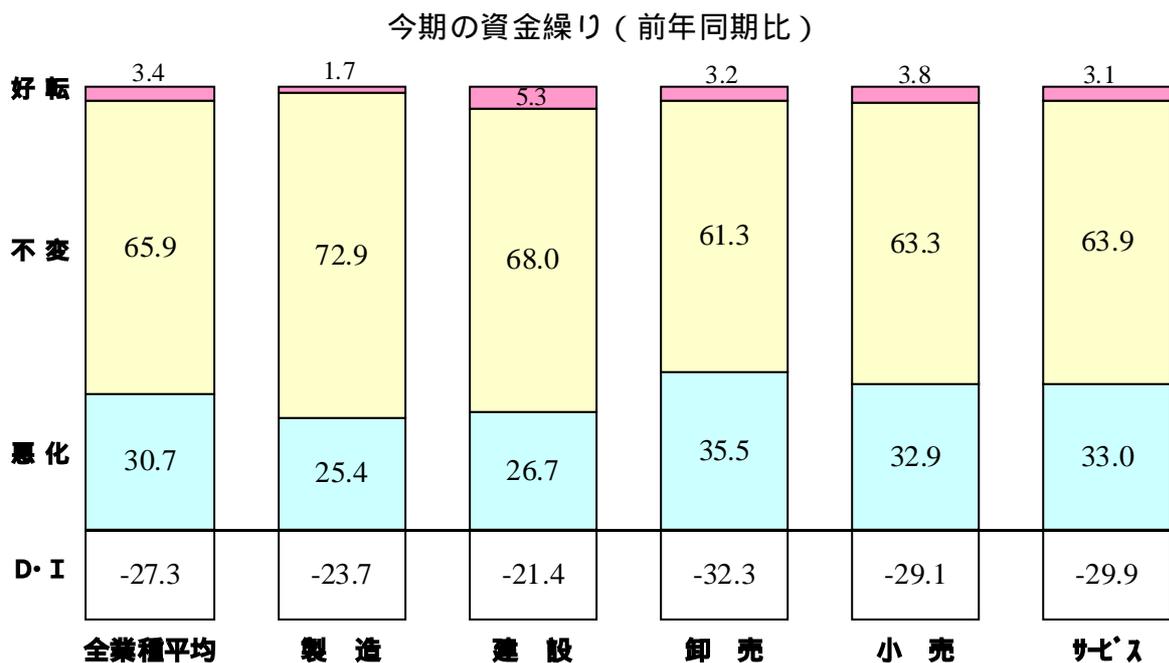
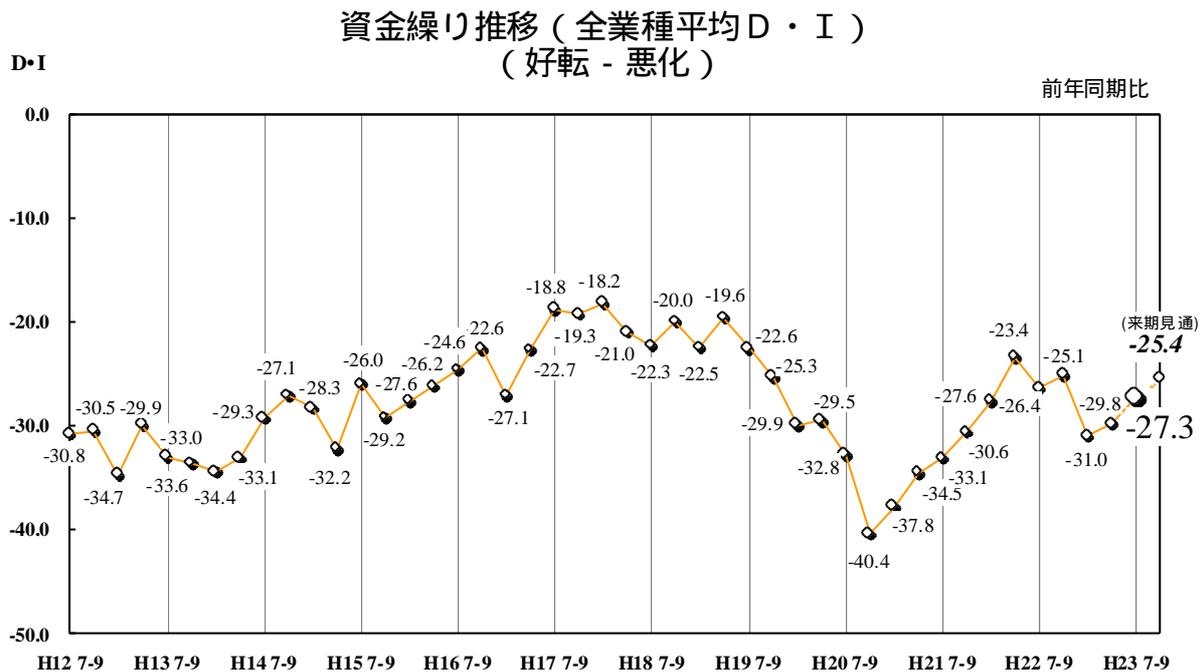


全業種平均でD・I値 **37.6**〔前回調査時（平成23年4～6月期 46.1）より8.5ポイントマイナス幅が縮小〕。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 49.9 33.9〕、建設〔前回 50.8 42.6〕
卸売〔前回 41.4 43.5〕、小売〔前回 41.6 34.2〕
サービス〔前回 41.9 33.7〕

(4) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成22年7～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）



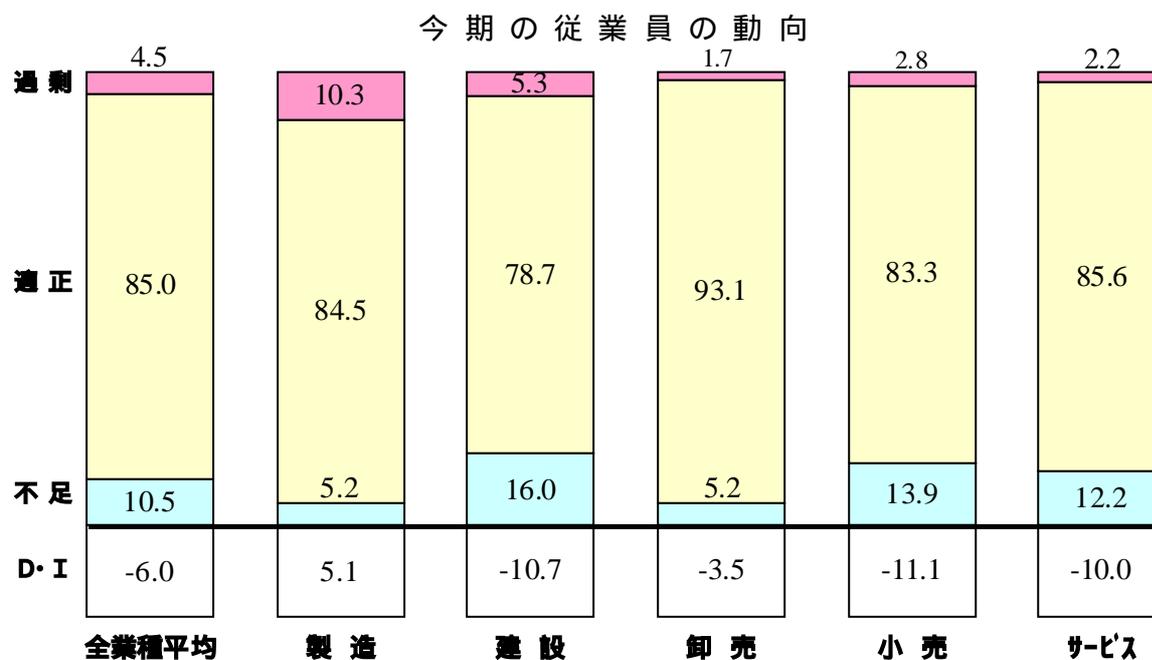
全業種平均でD・I値 **27.3**〔前回調査時（平成23年4～6月期 29.8）より2.5ポイントマイナス幅が縮小〕。前回調査時に比べ、D・Iはマイナス幅が縮小しているが、総じて全業種ともに不変とする回答が過半数を超えている。

〔業種別D・I値〕 製造〔前回 38.0 23.7〕、建設〔前回 23.2 21.4〕
卸売〔前回 20.7 32.3〕、小売〔前回 41.3 29.1〕
サービス〔前回 26.1 29.9〕

(5) 今期の経営上の問題点（1位に挙げられた項目）

製造業	「需要の停滞」	(34.6%)	[前回 43.1%]
	「原材料価格の上昇」	(16.4%)	[前回 23.5%]
	「製品(加工)単価の低下・上昇難」	(12.7%)	[前回 9.8%]
建設業	「官公需要の停滞」	(31.2%)	[前回 29.0%]
	「民間需要の停滞」	(22.4%)	[前回 19.7%]
	「請負単価の低下・上昇難」	(20.9%)	[前回 18.2%]
卸売業	「需要の停滞」	(68.2%)	[前回 63.8%]
	「仕入単価の上昇」	(5.3%)	[前回 3.6%]
	「販売単価の低下・上昇難」	(3.5%)	[前回 12.7%]
小売業	「需要の停滞」	(40.2%)	[前回 38.1%]
	「大型店・中型店進出競争の激化」	(18.9%)	[前回 18.3%]
	「販売単価の低下・上昇難」	(7.0%)	[前回 8.5%]
サービス業	「需要の停滞」	(42.4%)	[前回 43.9%]
	「利用者ニーズの変化への対応」	(12.2%)	[前回 9.2%]
	「大企業の進出による競争の激化」	(11.1%)	[前回 4.6%]

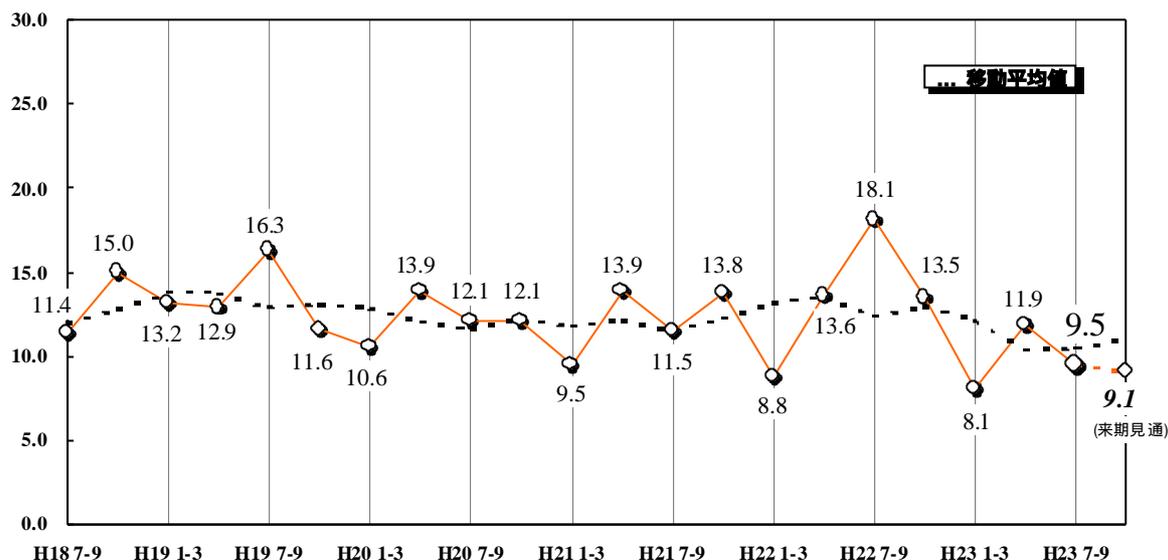
(6) 今期の従業員の動向



全業種平均でD・I値では 6.0〔前回調査時（平成23年4～6月期 1.1）〕と、製造業を除き従業員が不足していると回答する企業が増えている。

[業種別D・I値] 製造〔前回 6.9 5.1〕（適正84.5%）
 建設〔前回 0.0 10.7〕（適正78.7%）
 卸売〔前回 1.8 3.5〕（適正93.1%）
 小売〔前回 1.4 11.1〕（適正83.3%）
 サービス〔前回 1.1 10.0〕（適正85.6%）

新規設備投資実施の動向（全業種平均％）



（単位％）

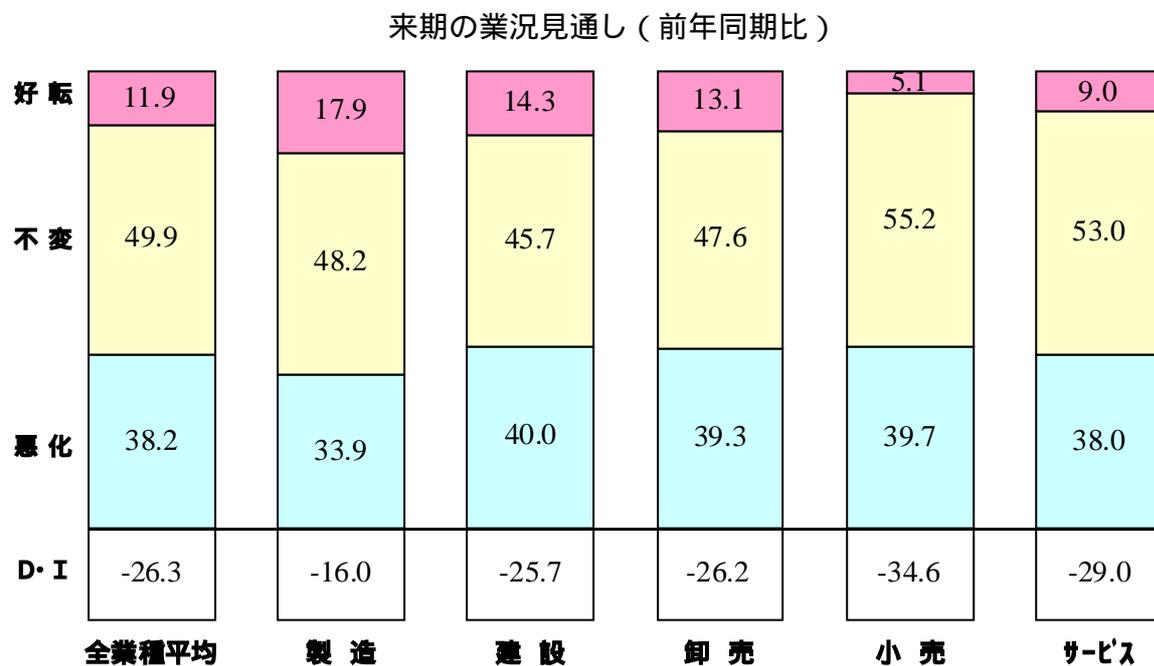
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施した	10.3	6.8	3.2	11.7	15.3	9.5
土地	16.7	0.0	0.0	11.1	13.3	3.7
工場建物、建物、店舗	33.3	0.0	0.0	33.3	26.7	10.0
生産・販売・サービス設備、建設機械	16.7	20.0	0.0	11.1	13.3	26.0
車両運搬具	16.7	20.0	50.0	33.3	33.3	35.0
倉庫・駐車場等の付帯施設	16.7	40.0	0.0	33.3	26.7	10.7
O A 機器	33.3	60.0	0.0	22.2	20.0	33.3
厚生施設	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	50.0	44.4	13.3	16.7
実施していない	89.7	93.2	96.8	88.3	84.7	90.5

新たに設備投資を実施した企業は平均で9.5％〔前回調査時（平成23年4～6月期11.9％）〕、業種別では製造〔前回17.5％ 10.3％〕、建設〔前回17.9％ 6.8％〕、卸売〔前回3.5％ 3.2％〕、小売〔前回8.1％ 11.7％〕、サービス〔前回12.5％ 15.3％〕と、設備投資を控える動きとなっている。

2. 来期の見通し

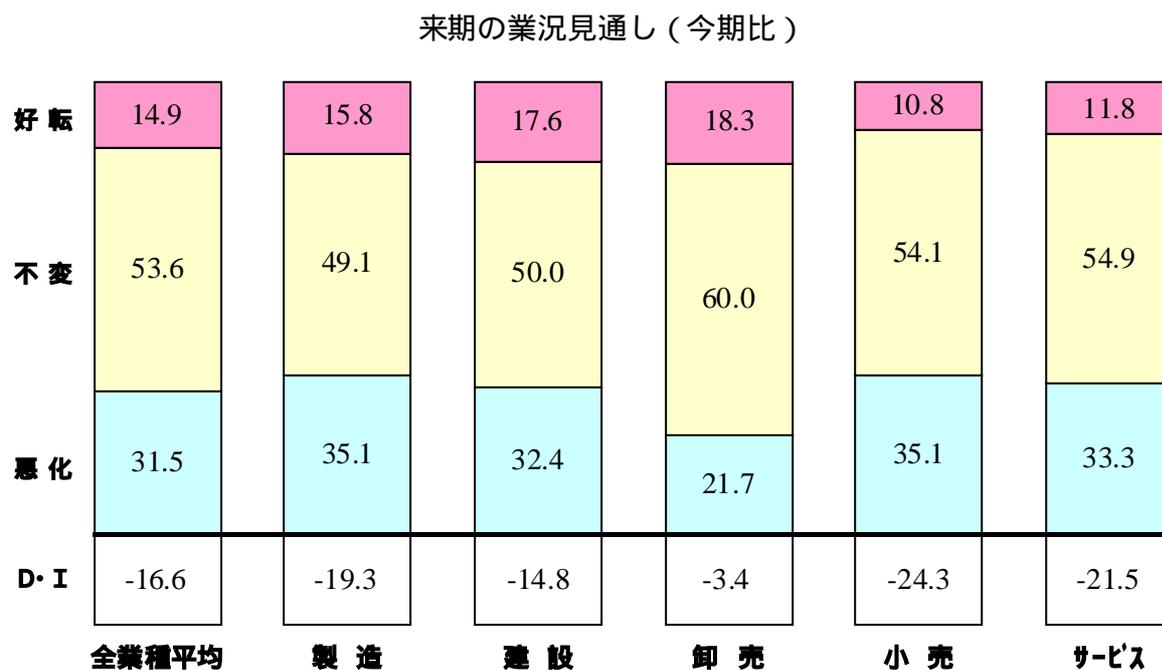
(1) 来期の業況

【前年同期比】（平成22年10～12月期の水準と比較した来期の見通し）



全業種平均でD・I値 **26.3**〔今期の業況（前年同期比 29.0）より2.7ポイントマイナス幅が縮小〕と、一部持ち直しの動きが見られる。

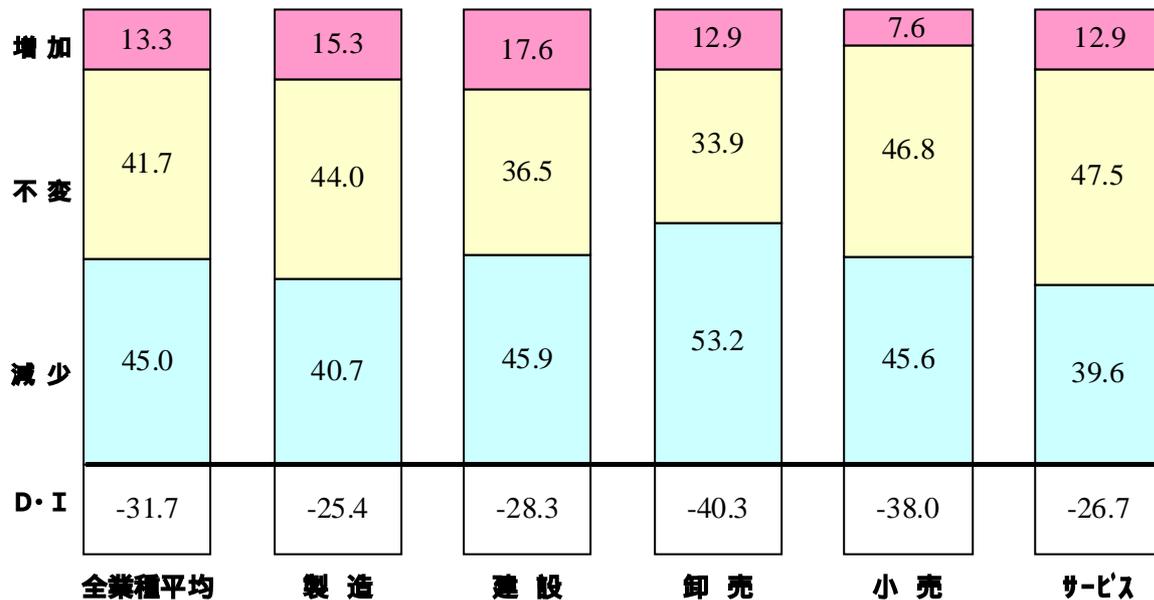
【今期比】（平成23年7～9月期の水準と比較した来期の見通し）



(2) 来期の売上高

【前年同期比】（平成22年10～12月期の水準と比較した来期の見通し）

来期の売上高見通し（前年同期比）

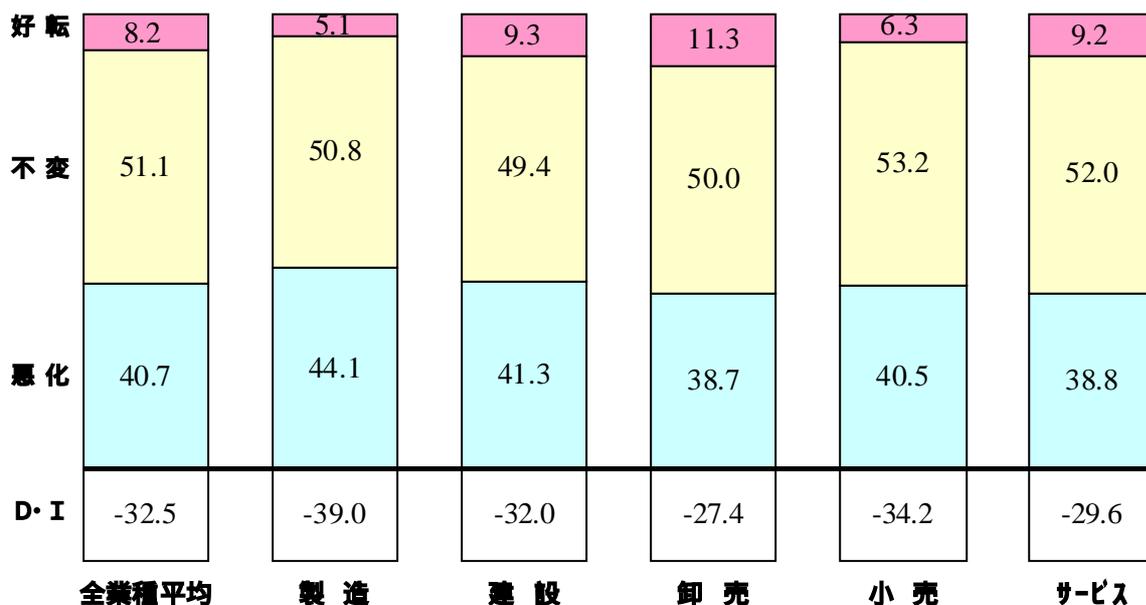


全業種平均でD・I値 31.7〔今期の売上高（前年同期比 32.5）より0.8ポイントマイナス幅が縮小する見通し〕。

(3) 来期の採算（経常利益）

【前年同期比】（平成22年10～12月期の水準と比較した来期の見通し）

来期の採算見通し（前年同期比）



全業種平均でD・I値 32.5〔今期の採算（前年同期比 37.6）より5.1ポイントマイナス幅が縮小する見通し〕。

(4) 来期の新規設備投資

(単位%)

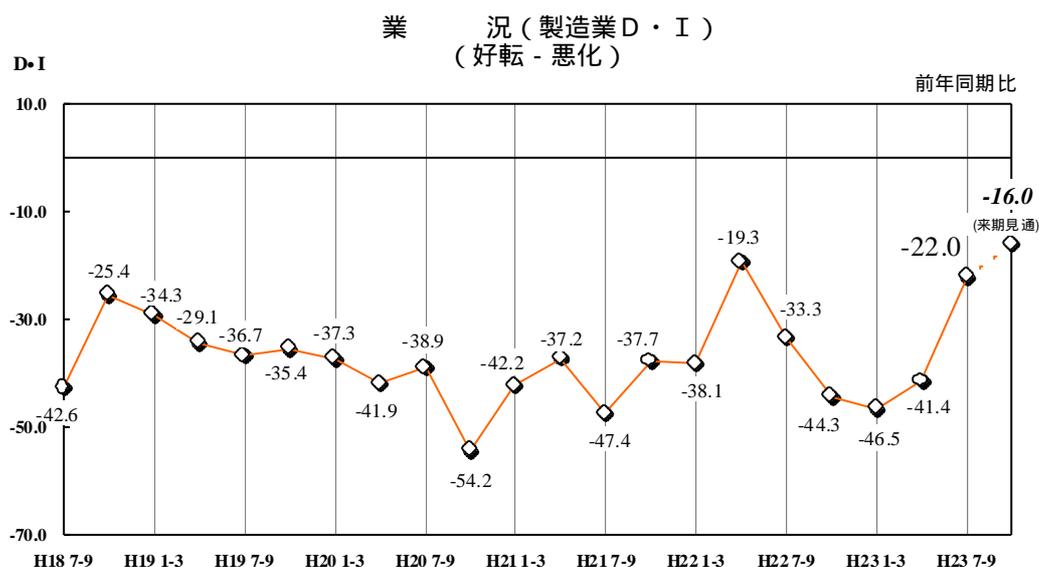
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施する	15.5	9.5	6.5	6.6	7.3	9.1
土地	0.0	0.0	0.0	20.0	28.6	1.7
工場建物、建物、店舗	0.0	0.0	0.0	20.0	28.6	7.0
生産・販売・サービス設備、建設機械	44.4	28.6	25.0	0.0	28.6	28.4
車両運搬具	22.2	28.6	25.0	20.0	28.6	25.2
倉庫・駐車場等の付帯施設	22.2	14.3	25.0	20.0	14.3	18.8
O A 機器	11.1	28.6	25.0	40.0	71.4	32.3
厚生施設	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	4.0
その他	11.1	14.3	25.0	20.0	0.0	6.2
実施しない	84.5	90.5	93.5	93.4	92.7	90.9

新たに設備投資を予定している企業は全業種平均で**9.1%**となっており、今期(9.5%)を下回る見通し。

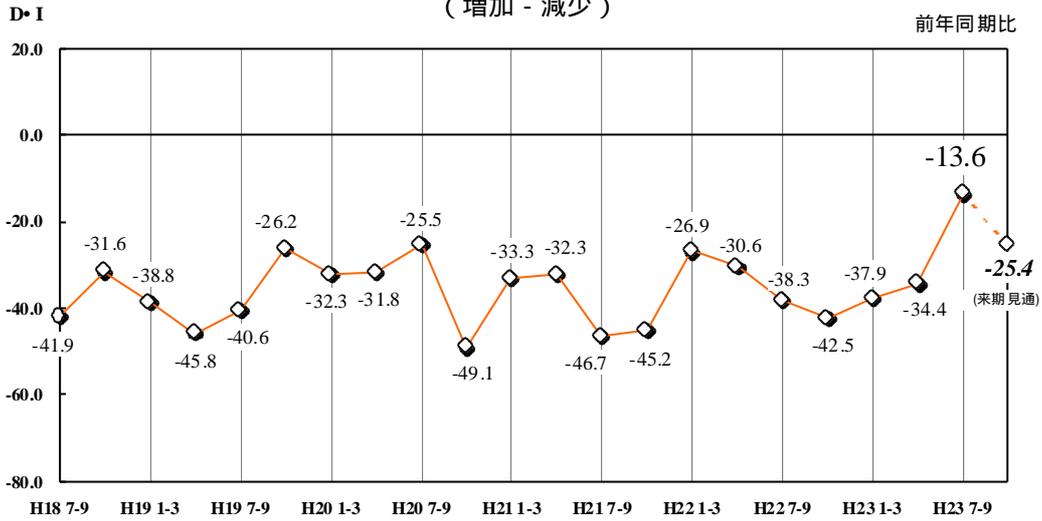
業種別では、製造〔今期10.3% 15.5%〕、建設〔今期6.8% 9.5%〕、卸売〔今期3.2% 6.5%〕、小売〔今期11.7% 6.6%〕、サービス〔今期15.3% 7.3%〕となっている。

業種別の動向

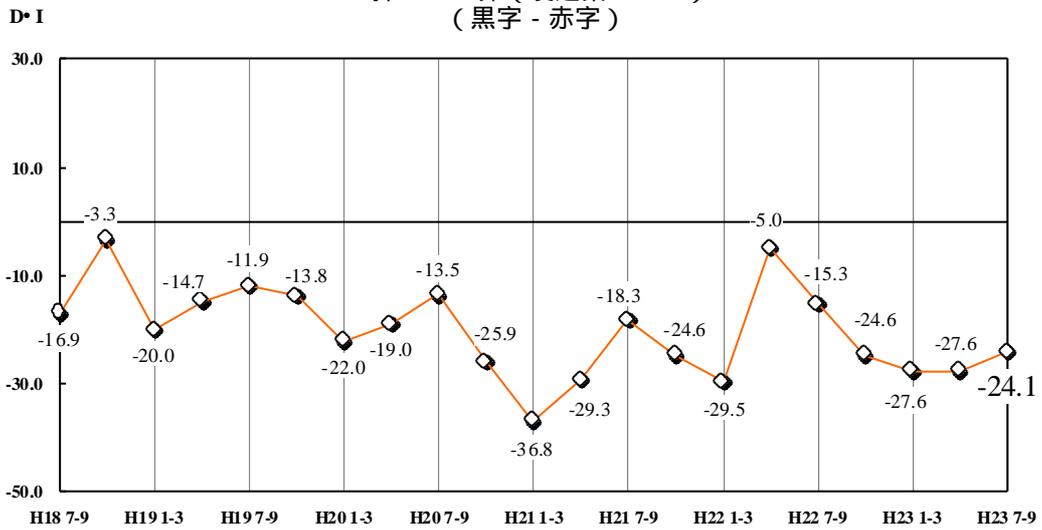
(1) 製造業



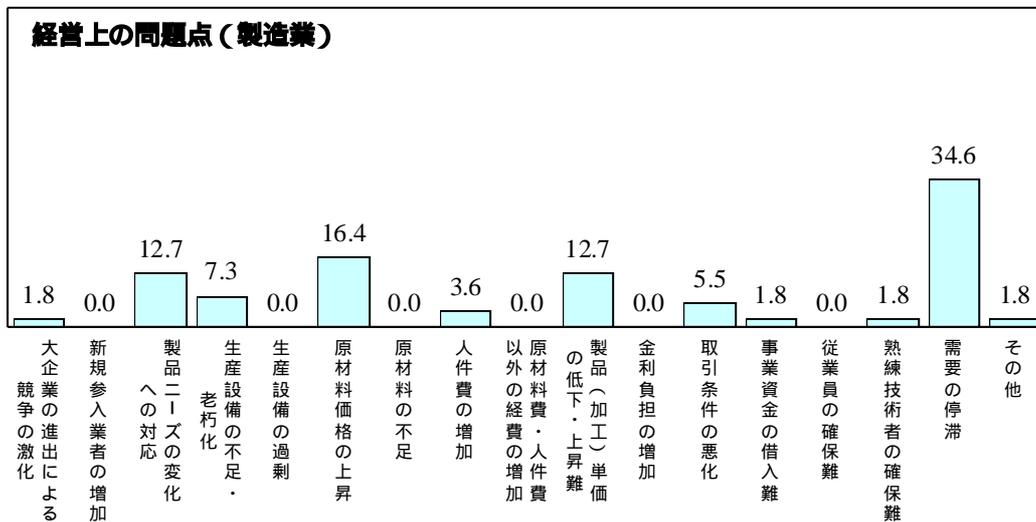
売上高（製造業D・I）
（増加 - 減少）



採算（製造業D・I）
（黒字 - 赤字）



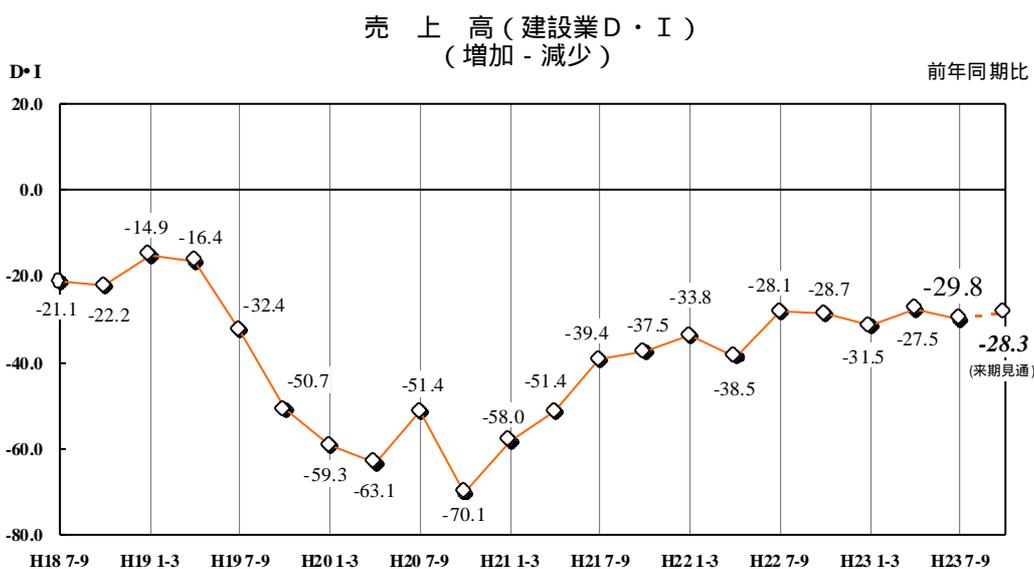
経営上の問題点



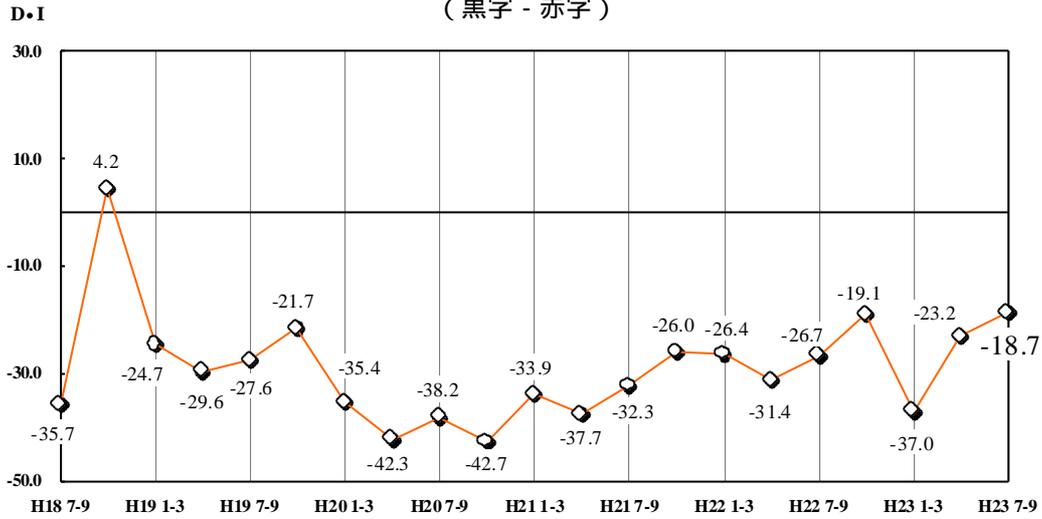
その他 (D・I値)

	今 期		来 期 (見通し)
	(前年同期比)	(前期比)	
資 金 繰 り	23.7	16.9	28.8 (前年同期比)
長期資金借入難度	-----	9.4	11.3 (今期比)
短期 〃	-----	4.0	8.0 (今期比)
設 備 操 業 率	15.5	-----	19.3 (前年同期比)

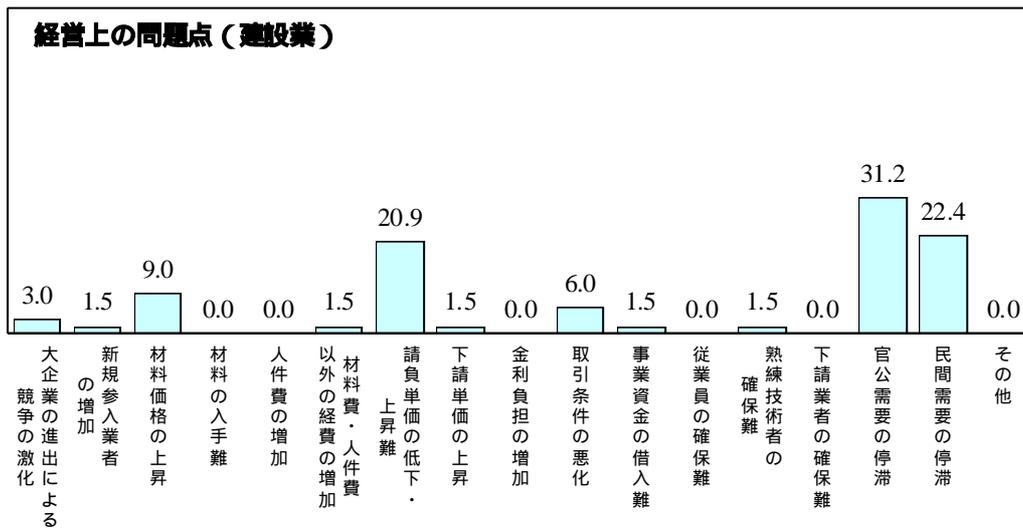
(2) 建 設 業



採 算 (建設業D・I)
(黒字 - 赤字)



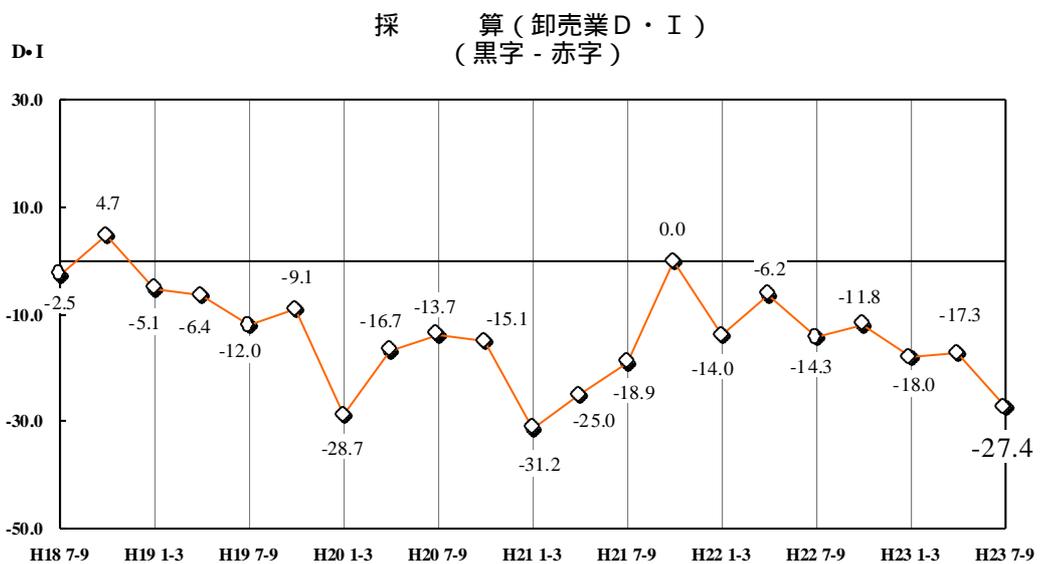
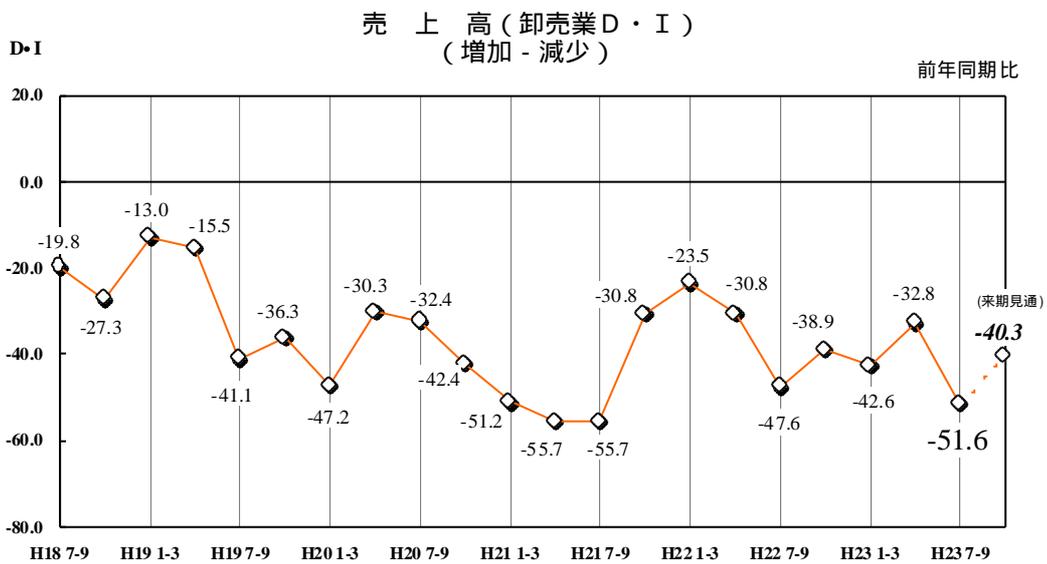
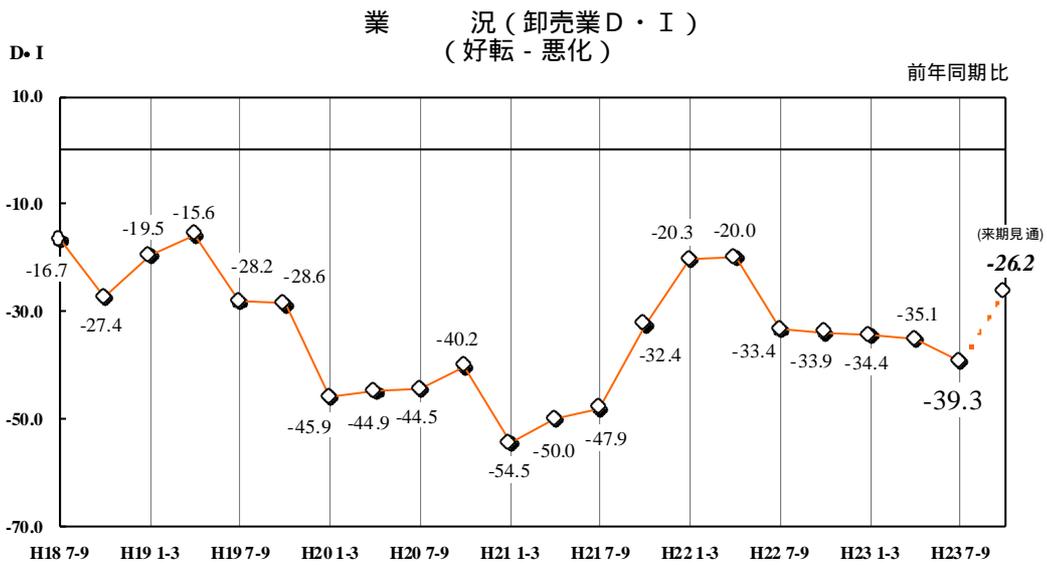
経営上の問題点



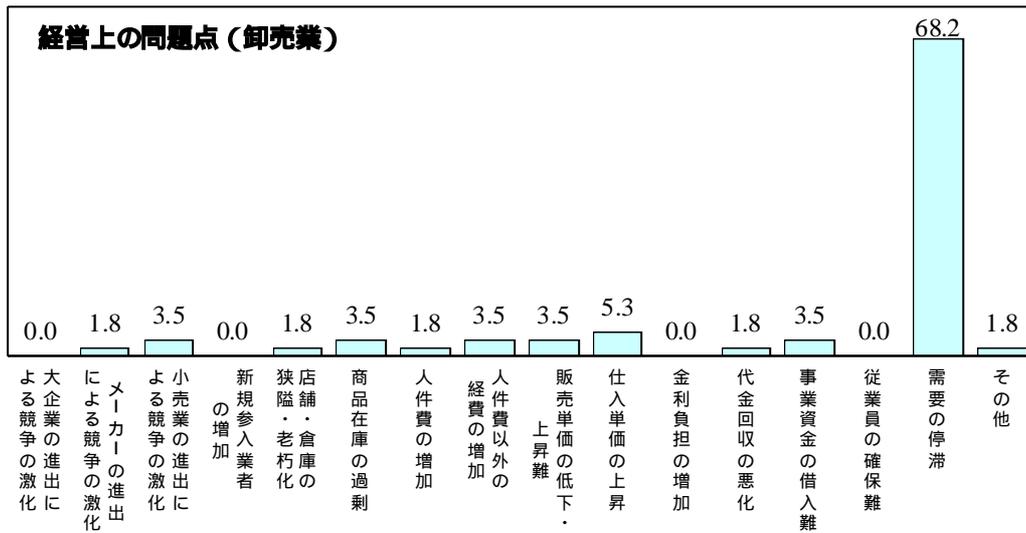
その他 (D・I値)

	今 期		来 期 (見通し)
	(前年同期比)	(前期比)	
資 金 繰 り	21.4	12.3	24.3 (前年同期比)
長期資金借入難度	-----	11.7	14.5 (今期比)
短期 "	-----	8.9	11.8 (今期比)
受注(新規契約工事)額	30.6	-----	30.7 (前年同期比)

(3) 卸 売 業



経営上の問題点



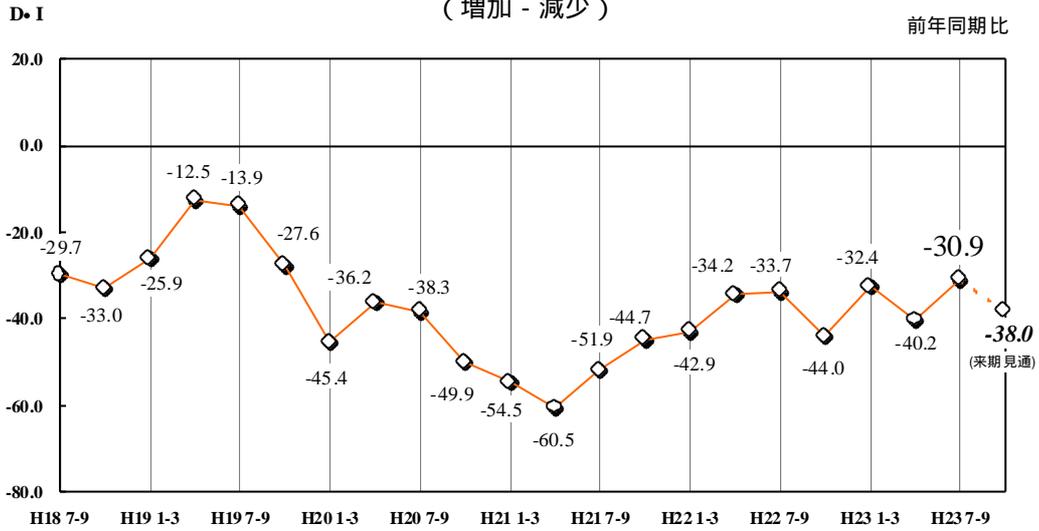
その他（D・I値）

	今 期		来 期 (見通し)
	(前年同期比)	(前期比)	
資金繰り	32.3	27.4	25.8 (前年同期比)
長期資金借入難度	-----	8.9	8.9 (今期比)
短期 "	-----	7.1	5.5 (今期比)
商品在庫数量	30.6	-----	31.2 (前年同期比)

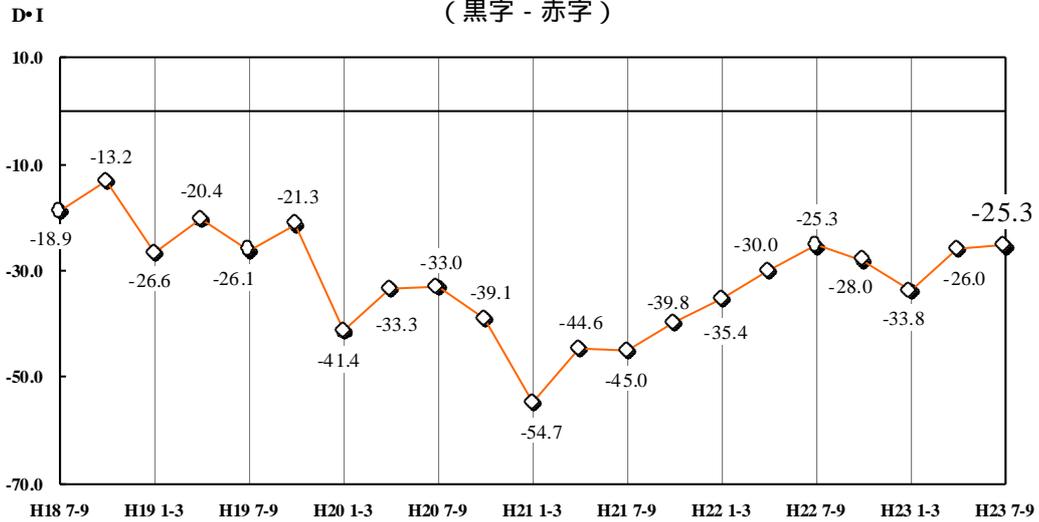
(4) 小 売 業



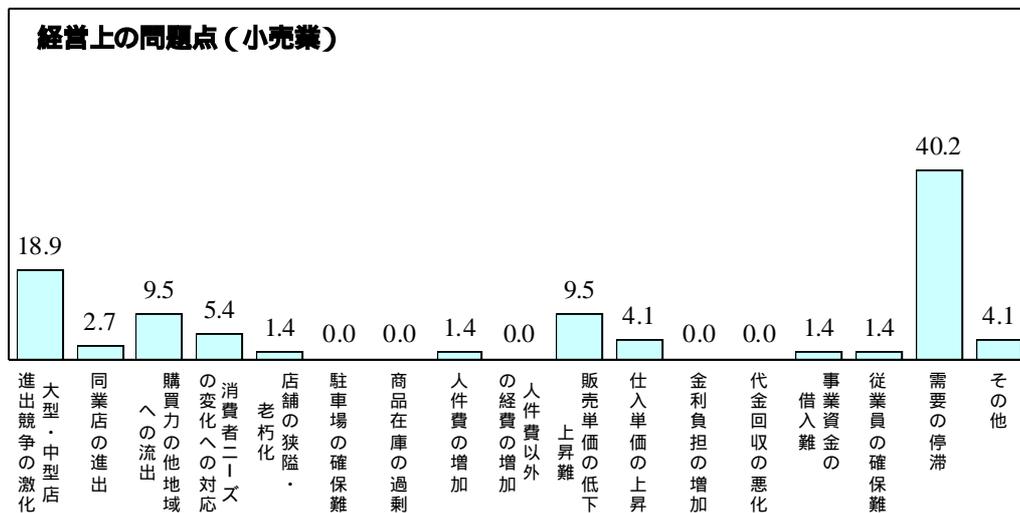
売上高(小売業D・I)
(増加 - 減少)



採算(小売業D・I)
(黒字 - 赤字)



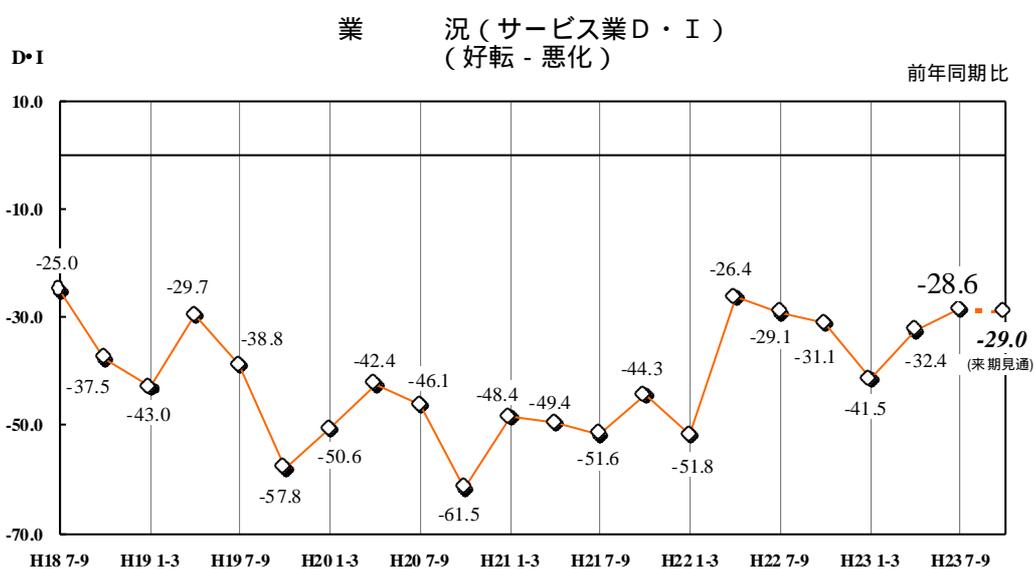
経営上の問題点



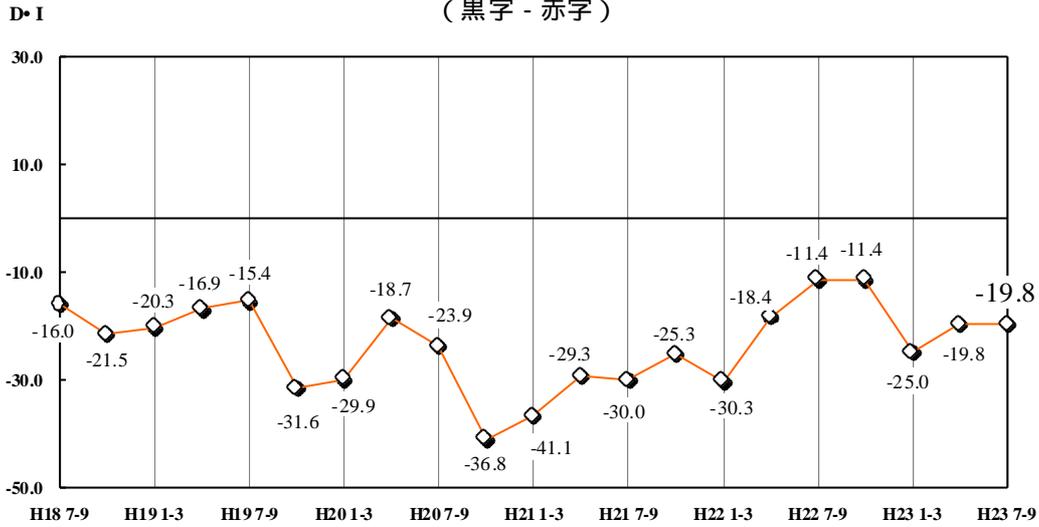
その他 (D・I値)

	今 期		来 期 (見通し)
	(前年同期比)	(前期比)	
資 金 繰 り	29.1	16.4	21.5 (前年同期比)
長期資金借入難度	-----	24.0	25.4 (今期比)
短期 〃	-----	16.1	19.7 (今期比)
商品在庫数量	17.7	-----	20.2 (前年同期比)

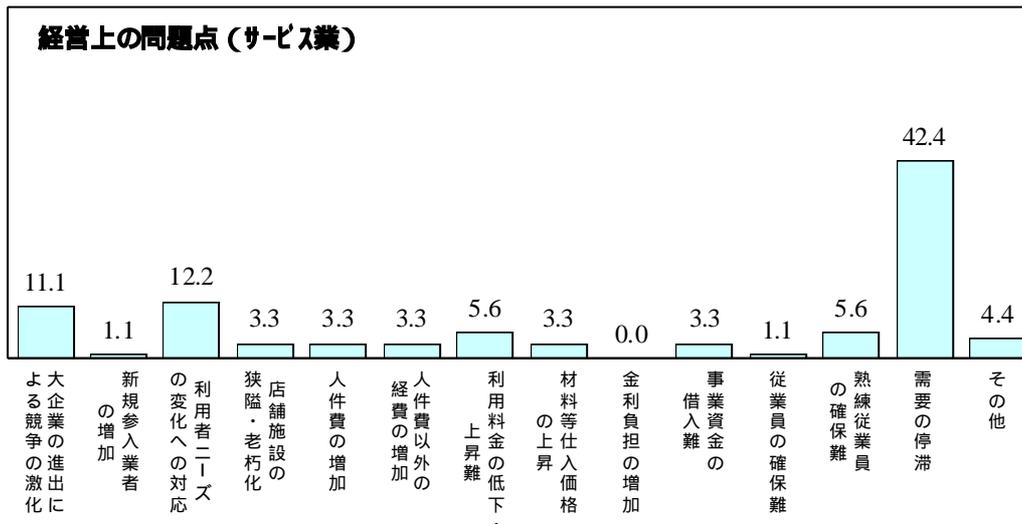
(5) サービス業



採 算 (サービス業 D・I)
(黒字 - 赤字)



経営上の問題点



その他 (D・I値)

	今 期		来 期 (見通し)
	(前年同期比)	(前期比)	
資 金 繰 り	29.9	28.9	26.8 (前年同期比)
長期資金借入難度	-----	20.7	22.4 (今期比)
短期 "	-----	17.1	17.5 (今期比)
利 用 客 数	32.6	12.4	23.4 (前年同期比)

. 業種別調査資料

